

## 『ピドキサル®錠』を溶解して内服する方法

ウエスト症候群の治療で用いられるビタミン B<sub>6</sub> 製剤の中でも、活性代謝物である「ピリドキサルリン酸エステル水和物製剤(ピドキサル®錠等)」が有用とされており、「ピリドキシリン塩酸塩製剤」は構造上、ウエスト症候群の治療には効果不十分であると考えられています。しかし、錠剤で内服できない場合には以下のような問題があります。

- ・「ピリドキサルリン酸エステル水和物製剤」の散薬は製造されていません。
- ・光により有効成分が減少したり着色するため、つぶした状態で長期間保管することができません。

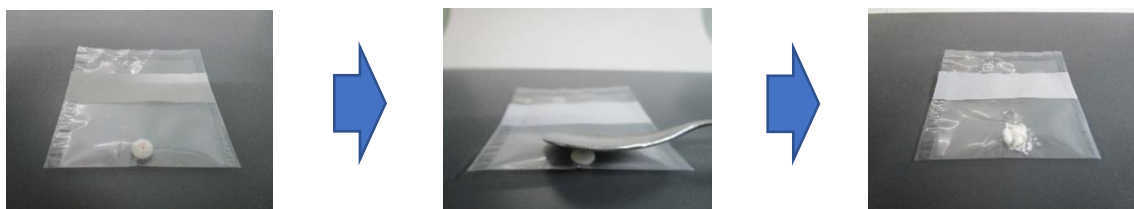
(対応策として・・・)

・**飲む直前**に錠剤をつぶし、温湯(約 55℃)に溶解することで、安定性に左右されることなく内服することができます。また、1 回の内服錠数が多い場合でも飲みやすくなります。

※溶解せずにつぶした状態のままであったり、錠剤で内服していただくことも可能です。とろみ剤でとろみをつけた水分を用いて内服する場合には、薬剤が崩壊しにくくなり、薬効に影響が出ることがあります。その場合には、温湯に溶解した後にとろみをつけることが勧められます。

### 対応方法の一例

- ① 分包されたピドキサル®錠を未開封の状態ですpoon等を用いてつぶします。  
(完全な粉状にする必要はありません。)



- ② 容器に温湯(約 55℃)を入れ、つぶしたピドキサル®錠を投入します。  
③ 振り混ぜて溶解したら内服します。



ポット(90~98℃設定)のお湯  
と水道水を2:1で混ぜると、  
約55℃の温湯ができます。

何かご不明な点がございましたら薬剤部までお問い合わせください。